事例No.	827
公表年度	H30
団体の属性	中核市
団体名	愛知県一宮市

事例区分	DX

タグ	・RPA ・（行政改革）業務の効率化 ・ICT

事例種類	RPA

事例内容・タイトル

OCR-RPAによるシステム入力業務の省力化

出典

地方自治体におけるAI・ロボティクスの活用事例

OCR-RPAによるシステム入力業務の省力化（愛知県一宮市）

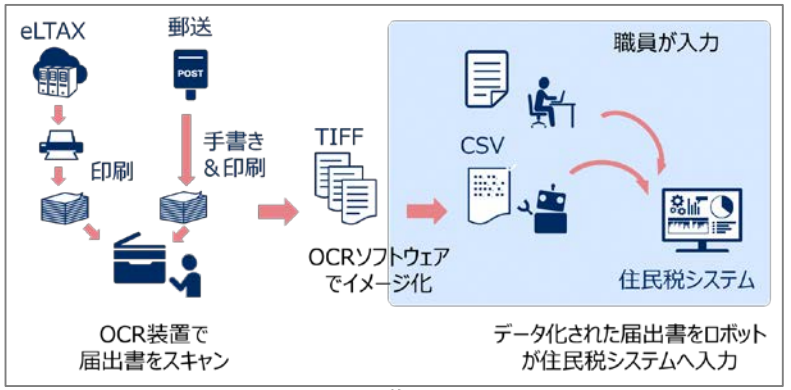
実証実験

個人住民税の「給与支払報告・特別徴収に係る給与所得者異動届出書（第18号様式）」のシステム入力業務をOCRとRPA（Robotic Process Automation）を組み合わせ、**ロボットが自動入力することで省力化**を実現。

課　題

○　給与支払報告・特別徴収に係る給与所得者異動届出書（以下「届出書」という。）はeLTAX（地方税ポータルシステム）での提出が５％程度と少ないため、**印刷後郵送された届出書と併せて住民税システムに入力**している。

○　従業員の退職や転勤による**届出が多い3月～5月は、住民税賦課業務の繁忙期と重なるため、職員の大きな負担**になっている。



OCR-RPA導入イメージ

取　組

○　**届出書のデータ化・RPAによる自動入力に関する実証実験**を実施。

○　紙の届出書をOCR装置でスキャンし、OCRソフトでイメージからデータ化したものを、ロボットが住民税システムへ入力。

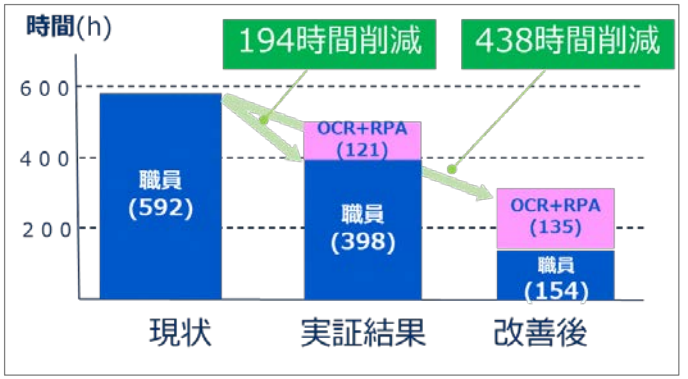
○　事業所の独自様式でレイアウトが異なる帳票・手書き帳票などデータ化が困難であったものは職員が入力。

成　果

○　年間18,000件提出される届出書の入力：592時間が、OCRとRPAの利用により398時間に短縮され、**年間194時間の職員負担が軽減**できる。

○　帳票レイアウトの工夫や帳票定義追加等の改善により、**OCRの読取り精度を高めれば、年間438時間の負担軽減が期待**できる。

○　2019年2月から本格導入し、ロボットによる自動入力で省力化を実現。



職員負担の比較